



I N A C H O ROTARY WEEKLY NEWS

事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
会長：熊谷 健 副会長：井上 修 幹事：小椋文成 公共イメージ向上委員長：太田明良

 <p>ロータリーの マジック</p>	<p>2024-2025 国際ロータリーのテーマ ロータリーのマジック</p>	<p>2024-2025 RI会長 ステファニー A. アーチック <米国ペンシルバニア州></p>	
<p>第1722回例会 令和6年12月3日(火)</p>			

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 君が代・奉仕の理想・四つのテスト 加藤篤ソングリーダー



■ ゲスト・ビジター紹介

・米山奨学生 アミン, エムディ アル 様

■ 会長談話 熊谷健会長



今日は、久々に DEI の話をしようと思います。

これは、何度も繰り返して話してきましたが、

DEI のうち、ダイバーシティ（多様性）とは、「性別、性的指向、肌の色や民族、国籍、宗教、年齢や世代、心身の障害の有無など、人々の違いや多様性を尊重すること」を云います。

エクイティ（公平性）とは、「情報や機会、資源などへのアクセスなどにおいて、全ての人に公平な扱いをしよう。」というものであり、

さらにインクルージョン（包摂性）とは、「どのような人であってもメンバーとして歓迎され、尊重され、支援され、評価されることができるよう環境を整備すること。」とされています。

DEI の考えの根底にあるのは「人権の尊重」であり、対義語は「差別」であると考えます。DEI の理念は、言い方を換えれば「差別をなくす。」ということであるとも言えます。

今日は、ダイバーシティのうち、年齢の差別、特に老人差別について話したいと思います。ここで、熊谷はまた難しい話をするんだろうと警戒されては困ります。

先週の例会に出席した方は、ひよんなことから、この人、井口明久さんという名古屋大学名誉教授から本の贈呈を受けた話をしましたが、今日もその本の中から、老人差別の話を読みたいと思います。

「昨今の日本の社会では、様々な社会制度が満年齢によって規定されるようになった。

高齢者は自分の年齢を全面に掲げて社会とお付き合いしなくなりました。

高齢者が大量に出現するようになってくると、高齢者の扱いを年齢によって区別するようになったのだ。だから現在の高齢者は柵をまたぐようにして年齢を確かめながら年を取っている。

最初は定年である。この制度によって本来は「失業者」であるべき高齢者が「退職者」として扱われるようになった。

70 歳になると、高齢者の運転免許証の取得に年齢ゲートが設けられている。
さらに最近では、75 歳になれば認知症検査を受けなければならない。
それに 75 歳を過ぎると誰でも後期高齢者医療制度に組み込まれる。
この頃の日本人は、自動車事故が報じられると必ず年齢を確かめるようになった。
年齢によって、人の価値を判断する風潮が広がってきている。
これほど年齢を意識しなければならない社会は、世界史でも存在したことはなかった。
社会制度の改革によって高齢者の生活が改善されたことは間違いないが、結果的に年齢差別を助長することにもなっている。」

■ 慶 祝

12 月誕生祝い

・松田靖宏会員 ・肥沼光彦会員 ・橋爪麻人会員



■ 米山奨学金の支給

・米山奨学生アミンさんへ熊谷会長より、ロータリー米山記念奨学会
「12 月分奨学金」が手渡されました。



■ ニコニコボックス

- ◆熊谷健 アミンさん、ようこそ。
皆さん、12月となり慌ただしい季節となりました。インフルエンザやコロナが流行っているようですので、体に気をつけてください。
- ◆小椋文成 今年も残すところ1ヶ月となりましたが、ロータリーの年度はまだ7ヶ月もあります。まだまだよろしくお願いします。
- ◆伊藤かおり 本日 年次総会があり、いよいよ次年度の方が紹介されるそうです。現会長・幹事、もう少しです。体調を労り頑張ってください！！
- ◆井上修 新役員のメンバー発表です。皆さんと相談しながら決めさせて頂きました。宜しく願い致します。
月信の表紙に孫を載せて頂きました。私と異なり、天使のような男の子です。
- ◆池上幸平 先週、陸運局の長野支部で役員法令試験を受けて来ました。68歳という歳で法規を勉強するのは大変です。引っかけ問題にすぐ騙される、問題の高齢者だったのかもしれませんが。とりあえず合格しました。

■ 幹事報告

小椋文成幹事

幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 委員会報告

・11月15日（金）諏訪RCへの米山奨学生卓話訪問の報告 三澤俊明米山カウンセラー



去る 11 月 15 日（金）に米山奨学生であるアミンと同カウンセラーの私三澤とで、諏訪ロータリークラブに訪問し、卓話を行って参りました。

諏訪ロータリークラブの例会の会場は皆さんご承知の諏訪湖畔にあります、老舗温泉旅館の「ぬのはん」となります。

実は昨年も私とアミンとでお邪魔した経緯がございまして。なぜ2年続けて？といった思いがありましたが、その疑問は現地を訪れて、例会に参加する中で、解決しました。

それは本年度から諏訪ロータリークラブにも私たちと同様に、米山奨学生が一人在籍し始めたからに他なりません。恐らく、米山奨学生同士の情報交換の場を好意で設けたかったのかと思います。

諏訪ロータリークラブの奨学生は中国人留学生の「チョウ」さんと言う方で信州大医学部の学生です。普段は松本に住んでおり、例会の時のみ諏訪までやって来るそうです。

「チョウ」さんからも自分の研究内容の発表があったのですが、やはり非常に難解な研究で、頭を捻る人が多数いました。

おかげで普段は難しいアミンの研究内容の発表も何とかやり過ごせました。

・12月1日（日）地区補助金管理セミナー（次年度事業説明会）の報告 加藤篤次期幹事



12 月 1 日にウェブで開催されましたロータリー財団補助金管理セミナーについて報告致します。

今回は主に①ロータリー財団について、②地区補助金実施状況と申請方法、③補助金管理会計の注意事項、④財団寄付の推進、⑤青少年育成基金助成金についてのセミナーでした。

また、地区補助金申請を行うためには今回のセミナー受講が必修である点も注意事項の一つです。

地区補助金事業は、継続的な事業については3年が限度であり、同じ事業を3年続けた場合は、以降5年間は同じ事業をすることができない点も注意すべき事項です。

当クラブの場合は、昨年は「古着でワクチン」事業を展開し、今年はますみが丘への植林作業を行ないました。従いまして、植林事業は本年が1年目であり来年度とさらに再来年度も同じ事業をすることはできません。2025-2026年度の補助金事業については、補助金の申請書提出期限が来年3月10日ですが、補助金算出添付資料も含めて申請書提出の必要がありますので、委員長中心に会員の皆様と補助金事業について検討させていただくことになります。

まず、ロータリー財団の地区補助金ですが皆様ご存知のようにロータリー財団への寄付が地区補助金やグローバル補助金として地区に配分されます。それが各クラブの地域に役立つ事業などに補助金として配分されています。

毎年当クラブでもロータリー財団へ寄付しておりますが、この寄付は3年間投資に当てられ、その収益が財団の運営に活用されて国際財団活動資金と地区財団活動資金に分けられ、その地区財団活動資金の中から地区補助金が支給されています。

今年はロータリー財団補助金マニュアルが一部改正されました。今回の改正では今年7月に新世代交換プログラムが廃止されたことに伴い補助金受給資格のある活動リストから新世代交換が削除されました。また、当クラブでは行っていないが18歳未満の人の海外渡航費用も受給資格のある活動リストから削除されております。

今回のセミナーでは青少年育成基金助成金の申請手続きについても説明がありました。

この青少年育成活動助成金を活用した事業については費用の80%以内かつ20万円を限度として受給することができます。

この青少年育成基金助成金は、継続事業についてロータリー財団と大きく違い制限がありませんので、例えば冠大会ソフトボールや野球の大会等について助成して行くことも可能です。しかし、インターアクトへの補助金はございません。

最後に、毎年会費の中からと何名かのロータリアンの皆様から多額の寄付を頂戴してロータリー財団へ納付しております。

補助金の配分はロータリー財団寄付の寄付状況によって決まってまいります。当クラブでは昨年度も

100%以上の寄付を実施することができました。

寄付行為はロータリアンの奉仕活動の一つとも言えるセミナーの中で申し添えられ、また、ロータリー財団への寄付は米山奨学会への寄付と同様に税制優遇されておりますので、積極的なご寄付をお願いいたします。

・12月1日（日）青少年育成基金助成金説明会（次年度事業説明会）の報告 井上修会長エレクト



青少年育成基金の設立は、2600地区が1986～1987年度に愛知県と分割されてから10年目を迎えるに当たり、その記念事業として設立された。趣旨は次世代を担う青少年の健全育成を図るため、地区をあげて募金活動をして基金を作るとある。当時の会員3,100名が5年間毎年一万円を寄付し積み立てを行った。桑澤年度の時の残高は2億円だったとか。

助成プロジェクトの要件は、ロータリークラブが事業主体で有る事。共催は、公共イメージ向上、金銭や物品の販売でなく、クラブの奉仕活動として会員が共に活動する事が必須。対象は青少年、地域社会に貢献、ロータリーにとってふさわしいものとする。この助成金は他の補助金、助成金を受けていけば対象外。インターアクトとは別とする。助成金は1クラブ1プロジェクト、費用の80%以内最大20万とする。令和7年5月末までに申請、同8月に交付。令和8年5月末までに実施、決算報告書を提出。

・「ロータリーの友」12月号紹介 市川修次ロータリー情報委員



横組み5ページにステファニーA・アーチックRI会長のメッセージが載っています。この中でアーチック会長は「ロータリーの行動計画に示されているように『適応』する為には、これまでの方法から一歩踏み出して新しい事にチャレンジする必要がある」という事で、二つのクラブを紹介しています。

一つはインドのチャンディガール・ミッドタウンRCで、このクラブでは会員基盤を強化する為に会長のニキン・カプールさんは退会した会員に電話をかけて同窓会に招待した。その結果8人が出席し6人が会員に復帰したとの事です。又、もう一つの例は韓国のソウル・ハンスRCは異なるモデルのクラブづくりを目指して四つの衛星クラブ（奉仕クラブ、音楽愛好家の為のクラブ、職業人へのメンタリングを行う分野特化型クラブ、大学生の為のクラブ）を作った。各衛星クラブは特定の活動分野に特化しており、異なる分野でアピールする事で現会員や入会候補者にクラブの魅力を伝えている、という事です。クラブでどのような体験を求めているかに目を向けて、それを元にどんな改善が出来るか検討してみましようと呼びかけています。

6ページにはロータリーとはという事で、ロータリーの誕生とその成長が載っています。ロータリーは20世紀初頭のシカゴで青年弁護士ポール・ハリスが友人3人と「お互いに信頼できる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間をふやしたい」との目的でロータリークラブを1905年2月23日にシカゴに作った。ロータリーとは、各自の事務所で持ち回りで集会を行う事から名付けられたという事です。それからロータリークラブは各地に生まれて現在、200以上の国と地域にクラブ数36,677、会員総数1,167,937人に達しているとの事です。世界中のRCとRACの連合体を国際ロータリーと呼ぶとの事です。

日本では1920年に東京RCが創立され世界で855番目のクラブとして国際ロータリーに加盟が承認された。その設立については米山梅吉、福島喜三次などの功績は忘れる事は出来ない。その後第二次世界大戦時に脱退などしたが、現在では国際ロータリーの中で日本の地位は不動のものとなっておりクラブ数は2195、会員数は83,376人となっているそうです。

12月は「疾病予防と治療月間」という事で医療の記事が多く載っています。8ページに「日本の地域医療の今」と題して地域医療のさまざまな課題、現状とその問題点を紹介しています。

日本人の平均寿命は世界的には高水準を維持しているそうですが、日本の医療環境は恵まれているのかという決してそうではなくて、OECD加盟38ヶ国の人口1000人当たりの医師数は平均3.5人、日本は2.4人と32位。かなり下位に位置しているとの事です。特に外科医、消化器外科の手術は年々増加している一方で消化器外科医は10年後には現在の4分の3、20年後には現在の半数になると言われておりかなり深刻な問題で、地域社会を支援する我々ロータリーとしても取り組むべき課題ではないかと述べています。

縦組みの4ページには「病気は第二の人生のスタート」という事で小澤由美さんと言う方がさいたま中央

RCでおこなった講演内容が載っています。この小澤由美さんという方は現在 46 歳京都出身のフリーアナウンサーですが、2022 年に白血病になった経験を伝えています。入院期間はトータルで 7 ヶ月に及んだとの事ですが、白血病になって良かったとは決していえないが悪い事ばかりではない、と締めくくっています。

9 ページからはこの人訪ねてという事で「日米を住き来した数奇な半生と港横浜の商店街再生に尽くす今」という題で川崎大師 RC の牛山裕子さんという方が載っています。この方は現在、伊勢佐木町商店街の理事長で、この牛山家の祖先は長野の出身という事で長野県にも縁のある方です。この方は戦前にアメリカで生まれて戦争で一時帰国したが、又、アメリカに渡り大学に進学し、アメリカで法務関係の仕事をしていた。1964 年の東京オリンピックで通訳として一次帰国したその時の縁で日本人と結婚して旦那さんがなくなり、不動産の貸付業の牛山事務所代表として今に至るとの事です。

最後の方に、ロータリーで頼まれたら「イエスカハイか喜んで」という返事しかないという、どこかで聞いたような言葉が載っています。

■ 出席報告 会員数44名 出席免除会員5名 長欠会員1名 本日出席者30名 事前メイク1名
出席率81.58% 前回出席率 修正なし

■ 理事会報告 小椋文成幹事

1. 会員退会届について
2. 年末家族例会について
 - (1)タイムテーブルについて (2)年末負担金について
3. 次期 (2025-26 年度) 役員・理事の構成について
4. 12 月の行事予定並びにメイクアップ扱いについて
5. 伊那中央 RC 事務所の年末年始休業について
6. その他



■ 年次総会

1. 次期役員・理事発表



・指名委員会より報告 平澤理指名委員長

指名委員会よりご報告致します。
次年度 会長エレクトに宮下健会員、次年度 副幹事に原一馬会員を指名し、お二人にはご快諾を得ましたのでご報告申し上げます。宜しくお願い致します。

・次期役員・理事の発表 井上修会長エレクト

【第39年度】2025年（令和7年）7月～2026年（令和8年）6月				
			※役員	◎理事
会 長	※◎井上 修	親睦活動・友好委員長	◎唐澤知子	
会 長 エ レ ク ト	※◎宮下 健	会員増強・プログラム委員長	◎三澤俊明	
副会長(クラブ運営委員長)	※◎鈴木一比古	公共イメージ向上委員長	◎澁谷恵二	
幹 事	※◎加藤 篤	デジタル化推進委員長	◎宮澤豊和	
副 幹 事	◎原 一馬	職業・社会奉仕委員長	◎太田明良	
会 計	※◎小椋文成	国際奉仕委員長	◎平澤 理	
S A A	※◎橋爪麻人	ロータリー財団委員長	◎吉原弘明	
ロータリー情報委員長	◎唐澤千明	米山記念奨学会委員長	◎田中真人	
戦略計画委員長	◎熊谷 健	青少年奉仕委員長	◎宮原英幸	
出席委員長	◎北原幹子	直 前 会 長	※◎熊谷 健	

・井上修会長エレクト挨拶

39 年度の新規役員は別紙の通りです。特徴が二つ。今回は初めての就任や年齢層の若い役員を委員長他役職に当てました。

- ①この中でクラブ委員長はクラブ運営委員長の鈴木一比古氏の元、委員会を適宜開催し、運営方針等確認・推進して頂きます。
- ②副委員長にも就任の了承を頂き、ベテラン会員にその任に当たって頂きます。委員長を補佐しながら進めて頂くようお願いしてあります。



2. 委員会会計の中間報告 宮下健会計



・宮下健会計より、各委員会会計の中間報告が行われました。

■ 点 鐘

13:30

次回例会

12月10日(火)

11:00～12:00 伊那市議会傍聴

12:30～例会 場所/海老屋料理店